

第50回 只見町文化祭

3年ぶりの開催!

第50回只見町文化祭

3年ぶりの開催
今年は2会場で

第50回只見町文化祭が、11月3日に只見振興センターとただみ・モノとくらしのミュージアムの2ヶ所を会場として開催されました。昨年、一昨年の文化祭は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期され、今年は3年ぶりの開催となりました。

開館式では、渡部町長や大塚町議会議長、渡部教育長、只見町文化協会の齋藤会長がテープカットを行い、開催を祝福しました。

メイン会場の只見振興センターでは、町民文芸コーナーや茶道コーナー、ふるさと食堂などが開かれた他、小野川三四さん作の只見線紙芝居が披露され、多くの

人で賑わいました。サブ会場のただみ・モノとくらしのミュージアムでは、朝日小学校児童と只見町昔ばなしの会による「民話茶屋」が開かれ、来場者は只見町の昔ばなしなどに耳を傾けました。

始まりは 産業文化祭

只見町文化祭の第1回は、「産業文化祭」として、昭和46年11月に開催されました。会場では、農作物の品評会や農林業器具の展示、NHKアナウンサーによる文化講演会などが行われ、開催期間中の来場者数は延べ3,000人にもなりました。

次の写真は、当時の只見総合開発センターで行われた第1回産業文化祭の様子です(広報ただみより)。会場産品の即売や町の観光開発等の紹介、郷土芸能大会が行われ、紅葉シーズンも相まって県内外から多くの人々が来場されました。



昭和52年の第7回から「只見町文化祭」と名前を変え、産業主体の文化祭から、芸術や文化部門に主体をおいた文化祭になりました。会場内では、手工芸品や民芸品の展示が行われたり、芸能発表会が行われたりしました。(産業文化祭は、第9回に町制20周年記念として、第19回に町制30周年記念として、第24回から第39回までは5年毎に開催されました)

只見振興センター



1 茶道コーナーでは、お茶を点てる様子を見ながら、お茶をいただきました 2 日本赤十字奉仕団ともしび会によるチャリティバザーも多くの人が訪れました 3 4 俳句・短歌作品の展示が行われ、来場者は詠まれた背景をしみじみと感じていました 5 手工芸コーナーには、たくさんの作品が並べられました。またデコレーション体験は、幅広い年齢層の方が参加されました 6 健康づくりコーナーでは、わたしの自慢のごはんコンテストの作品紹介や認知症予防の紹介などが行われました 7 ふるさと食堂のわたあめが子どもたちに大人気でした 8 只見高校PRコーナーでは総合的な探究の時間の中間報告などが掲示された他、甲子園選抜旗など甲子園関連についても展示が並べられました 9 SDGs研究として、ブラックバスをどのように地域活性に繋げられるかを発表した南会津高校 堀金康太さん 10 只見線紙芝居は、増席するほど大盛況でした。作者の小野川三四さんは、何度も只見町に足を運び取材を重ね、作品を作られたそうです

ただみ・モノとくらしのミュージアム



1 町民芸術コーナーには、保育所年長児から大人までの多くの作品が展示されました 2 民具体験コーナーではユッコギやゲンベイ、かんじきなどを体験しました 3 只見町昔ばなしの会と朝日小学校の児童による民話茶屋は大盛況でした 4 民芸品コーナーでは、つる細工などの民芸品が展示された他、つる細工体験も行われました



只見町文化祭事業の一環で「第25回芸能発表会」が、11月13日に季の郷湯ら里で開催されました。今回は、コーラスはなみずき、はぎの会、只見音楽研究会、瞳の会、只見つくし会、天領只見仙嶽太鼓保存会の6団体による、美しい歌声や華やかな舞踊、迫力のある演奏などが披露され、来場者を魅了しました。

只見町文化協会 第25回芸能発表会